

第一回 根木内歴史公園湿地調査報告

2008年6月にみなさまのご理解とご協力を得て行った湿地全域の98地点における調査ですが、今回少しデータをまとめることができたので、ひとまず結果をご報告させていただきます。今後このデータを基にした管理法などをみなさまと一緒に考えていけたら幸いです。

なお、不明な点、気がかりな点などありましたら、些細なことでも相澤まで口頭・メールなどにてご連絡下さい。

千葉大学自然科学研究科
相澤 章仁
akihitoaizawa@graduate.chiba-u.jp

調査日

2008年6月4日及び10日の2日間

概要

根木内歴史公園湿地部の植生を客観的にわかりやすく調査するため、98地点に調査地点を設け、方形区を用いた調査を行いました。

98箇所の調査地点は次項の図1のように横10m、縦5mの格子で湿地部を分割することで設け、その中心部分の50cm×50cmの中で優占している植物と、生育している植物すべてを記録していきました。その結果、32科72種（不明種4種を含む）の植物が出現し、そのうち環境省レッドデータ植物の準絶滅危惧種は2種（タコノアシ・カワヂシャ *ミクリは今回の調査区域内には入りませんでした。）、外来種は15種（うち要注意外来生物*7種）でした（4ページの表1参照）。

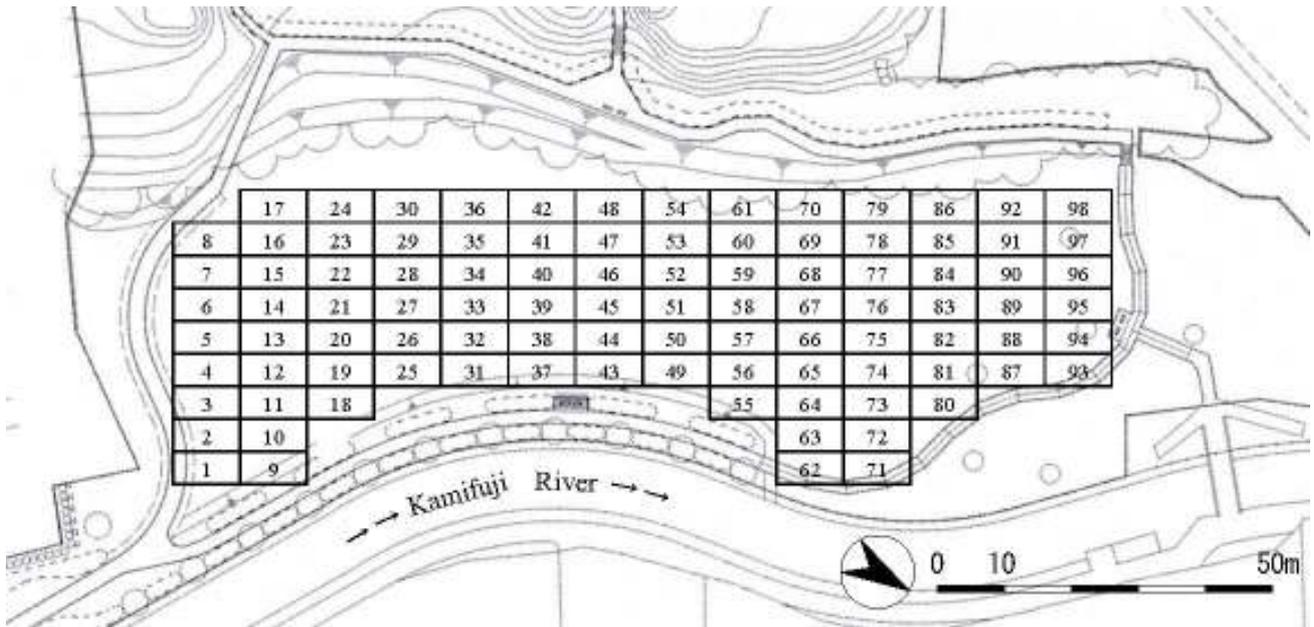
図2には各地点で優占していた植物、図3には各地点での種数が示してあります。南側（図の左側）のヨシ原は水深が深いためか種数が低い傾向にあります。北側（図の右側）は種数が多い傾向にあります。特にヨシやオギ、クサヨシが優占する地点が隣り合っていたり混ざっていたりする地点で種数が多い傾向があります。

*要注意外来生物

外来生物法で特定外来生物に指定はされないものの、生態系や人体に悪影響を及ぼしうる生物として注意すべき種。次の4つのカテゴリーがある。

- (1) 被害に係る一定の知見があり、引き続き指定の適否について検討する外来生物
- (2) 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物
- (3) 選定の対象とならないが注意喚起が必要な外来生物（他法令の規制対象種）
- (4) 別途総合的な取組みを進める外来生物（緑化植物）

図 1：調査区域の概要



図の上が芝生広場方面、左が正面入り口方面。右下に霜田橋が見られる。

図 2：優占種の分布

植物名	ヨシ	オギ	クサヨシ	オギ・ヨシ	ミソソバ	セリ	オギ・ミコシガヤ	ケイヌビエ	ドクダミ	アオミズ	枯ヨシ	なし	計
出現数	43	17	5	4	2	2	1	1	1	1	1	20	98

分布図

	ミソソバ	ヨシ	クサヨシ	ヨシ	なし	なし	なし	クサヨシ	ドクダミ	クサヨシ	なし	なし	なし
クサヨシ	ミソソバ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	セリ	オギ	なし	オギ	クサヨシ	なし	ヨシ	ヨシ	ヨシ
ヨシ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	セリ	なし	オギ・ヨシ	オギ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	枯ヨシ	オギ
ヨシ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	ケイヌビエ	ヨシ	オギ	オギ	オギ	なし	なし	ヨシ	なし
ヨシ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	なし	ヨシ	なし	オギ	オギ	オギ	ヨシ	オギ	アオミズ
ヨシ	ヨシ	ヨシ	ヨシ	なし	なし	なし	ヨシ	オギ・ヨシ	オギ・ヨシ	オギ	オギ	なし	なし
ヨシ	ヨシ	ヨシ						オギ	オギ・ヨシ	ヨシ	オギ		
ヨシ	ヨシ								オギ	オギ			
ヨシ	ヨシ								オギ・ミコシガヤ	なし			

図 3：各地点での種数

種数	0	1	2-5	6-10	11-	計
頻度	3	24	28	33	10	98

分布図

	5	2	2	4	5	1	6	11	9	3	5	9	6
4	2	2	2	1	4	13	3	12	11	3	1	6	9
4	7	2	1	1	5	7	7	9	11	8	3	4	1
2	2	1	1	1	11	11	6	4	15	10	6	7	0
1	1	1	1	1	0	7	6	9	5	9	6	5	12
1	1	1	1	2	3	6	10	10	7	9	8	7	0
1	1	1						9	11	7	8		
1	1								3	7			
2	1								6	8			

図 4：タコノアシの分布（環境省準絶滅危惧種）

	17	24	30	36	42	48	54	61	70	79	86	92	98
8	16	23	29	35	41	47	53	60	69	78	85	91	97
7	15	22	28	34	40	46	52	59	68	77	84	90	96
6	14	21	27	33	39	45	51	58	67	76	83	89	95
5	13	20	26	32	38	44	50	57	66	75	82	88	94
4	12	19	25	31	37	43	49	56	65	74	81	87	93
3	11	18						55	64	73	80		
2	10								63	72			
1	9								62	71			

図 4 から図 8 は各植物が確認された地点を灰色で表しているものです。

図 4 のタコノアシは木道沿いのいくつかの地点と春先に池を埋めたパーゴラ前にまばらに存在しています。

図 5：カワヂシャの分布（環境省準絶滅危惧種）

	17	24	30	36	42	48	54	61	70	79	86	92	98
8	16	23	29	35	41	47	53	60	69	78	85	91	97
7	15	22	28	34	40	46	52	59	68	77	84	90	96
6	14	21	27	33	39	45	51	58	67	76	83	89	95
5	13	20	26	32	38	44	50	57	66	75	82	88	94
4	12	19	25	31	37	43	49	56	65	74	81	87	93
3	11	18						55	64	73	80		
2	10								63	72			
1	9								62	71			

図 5 のカワヂシャは、木道沿いや湿地南側にも少しずついますが、パーゴラ前に集中的に分布していることが特徴的です。

図 6：セリの分布

	17	24	30	36	42	48	54	61	70	79	86	92	98
8	16	23	29	35	41	47	53	60	69	78	85	91	97
7	15	22	28	34	40	46	52	59	68	77	84	90	96
6	14	21	27	33	39	45	51	58	67	76	83	89	95
5	13	20	26	32	38	44	50	57	66	75	82	88	94
4	12	19	25	31	37	43	49	56	65	74	81	87	93
3	11	18						55	64	73	80		
2	10								63	72			
1	9								62	71			

図 6 はセリの分布です。水位の高いヨシ原以外には満遍なく存在します。

図 7：セイタカアワダチソウの分布（要注意外来生物(1)）

	17	24	30	36	42	48	54	61	70	79	86	92	98
8	16	23	29	35	41	47	53	60	69	78	85	91	97
7	15	22	28	34	40	46	52	59	68	77	84	90	96
6	14	21	27	33	39	45	51	58	67	76	83	89	95
5	13	20	26	32	38	44	50	57	66	75	82	88	94
4	12	19	25	31	37	43	49	56	65	74	81	87	93
3	11	18						55	64	73	80		
2	10								63	72			
1	9								62	71			

図 7 はセイタカアワダチソウ、図 8 はヒメジョオンの分布です。この二つは要注意外来生物ですが、ヒメジョオンが分布している近くには必ずセイタカアワダチソウが分布しています。主にヨシ原やオギ原の縁と思われませんが、この 2 つの外来植物に共通して適した環境にあるのかもしれない。

図 8：ヒメジョオンの分布（要注意外来生物(2)）

	17	24	30	36	42	48	54	61	70	79	86	92	98
8	16	23	29	35	41	47	53	60	69	78	85	91	97
7	15	22	28	34	40	46	52	59	68	77	84	90	96
6	14	21	27	33	39	45	51	58	67	76	83	89	95
5	13	20	26	32	38	44	50	57	66	75	82	88	94
4	12	19	25	31	37	43	49	56	65	74	81	87	93
3	11	18						55	64	73	80		
2	10								63	72			
1	9								62	71			

表 1 には今回の調査で出現したすべての植物が挙げられています。パッチとは群落と似た概念で、同じ種類が縦横斜めでつながっている 1 つのかたまりを表します。図 8 のヒメジョオンを例にとると、地点 44、49、56、64、73、74 がつながって 1 つのパッチを形成しています。パッチ数はその植物のパッチがいくつあるのか、最大パッチはその植物の最も大きなパッチはいくつの地点がながってできたものなのかを表します。

表1: 出現種とその出現頻度、パッチ数、最大パッチの大きさ

科名	種類	出現頻度	パッチ数	最大パッチ	備考
イネ科	ヨシ	59	2	46	
セリ科	セリ	37	2	33	
イネ科	オギ	31	1	31	
イネ科	クサヨシ	23	4	11	
イネ科	カモジグサ	20	6	13	
バラ科	ヤブヘビイチゴ	18	3	16	
トクサ科	スギナ	17	2	15	
マメ科	ツルマメ	17	3	15	
キク科	セイタカアワダチソウ	17	7	8	要注意外来生物(1)
タデ科	ミゾソバ	16	4	10	
イラクサ科	アオミズ	15	4	11	
クワ科	カナムグラ	10	6	3	
ゴマノハグサ科	カワヂシャ	10	3	8	環境省準絶滅危惧種
キク科	ヒメジョオン	9	4	6	要注意外来生物(2)
イネ科	チヂミザサ	8	6	3	
ツユクサ科	イボクサ	7	5	3	
ヒルガオ科	コヒルガオ	7	3	4	
ツユクサ科	ツユクサ	6	4	2	
カヤツリグサ科	アゼナルコ	6	5	2	
タデ科	イヌタデ	6	4	2	
ナデシコ科	ノミノフスマ	6	3	3	
ドクダミ科	ドクダミ	6	3	4	
ユキノシタ科	タコノアン	6	3	3	環境省準絶滅危惧種
キク科	ヨメナsp	6	5	2	
イグサ科	コウガイゼキショウ	5	2	3	
イネ科	イヌビエ	5	3	2	
カヤツリグサ科	ヌマガヤツリ	5	1	5	
ナデシコ科	ウシハコベ	5	5	1	
キンボウゲ科	タガラシ	5	3	2	
アカネ科	ヤエムグラ	5	3	3	
ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ	5	3	3	外来種
イネ科	イネ科sp	4	2	3	
ガマ科	ヒメガマ	4	3	2	
カヤツリグサ科	ミコシガヤ	4	3	2	
ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	4	3	2	
キク科	ヨモギ	4	4	1	
イグサ科	イ	3	2	2	
イネ科	アオカモジグサ	3	2	2	
イネ科	アズマネザサ	3	2	2	
カバノキ科	イヌシデ	3	2	2	
タデ科	アレチギンギシ	3	3	1	外来種
キク科	アキノノゲシ	3	2	2	
キク科	アメリカセンダングサ	3	3	1	要注意外来生物(2)
アヤメ科	キショウブ	2	2	1	要注意外来生物(2)
イネ科	ケイヌビエ	2	1	2	
イネ科	ネズミムギ	2	2	1	要注意外来生物(4)
タデ科	オオイヌタデ	2	2	1	
タデ科	ナガバギンギシ	2	2	1	外来種
ナデシコ科	コハコベ	2	2	1	外来種
アブラナ科	イヌガラシ	2	2	1	
アブラナ科	タネツケバナ	2	2	1	
マメ科	シロツメクサ	2	2	1	外来種
キク科	ハルジオン	2	1	2	要注意外来生物(2)
イグサ科	コゴメイ	1	1	1	外来種
イネ科	マコモ	1	1	1	
イネ科	メシバ	1	1	1	
ガマ科	ガマ	1	1	1	
カヤツリグサ科	マスクサ	1	1	1	
ニレ科	ムクノキ	1	1	1	
タデ科	ギンギシsp	1	1	1	
ナデシコ科	オランダミミナグサ	1	1	1	外来種
クスノキ科	アオモジ	1	1	1	
アケビ科	イツツバアケビ	1	1	1	
マメ科	ヤハズエンドウ	1	1	1	
マメ科	ノダフジ	1	1	1	
ブドウ科	ヤブガラシ	1	1	1	
ミズキ科	アオキ	1	1	1	
オオバコ科	オオバコ	1	1	1	
スイカズラ科	ニワトコ	1	1	1	
キク科	キクイモ	1	1	1	要注意外来生物(2)
キク科	キク科sp	1	1	1	
キク科	ハキダメギク	1	1	1	外来種